

## ウズラ

*Coturnix japonica* (コトウルニクス・ヤポニカ)

### 1. 生物学的特徴

【繁殖】 繁殖期は4～9月、ときには10月に及ぶ。つがいの関係ははっきりしない。巣は草むらの中や藪の根元にくぼみを作り草の葉で粗雑な内張りをメスのみが作る。1巣卵数は5～12個。メスのみが抱卵し16～21日くらいで孵化する。孵化したヒナは早成性の離巢性で19日ほどで飛べるようになる。オスは抱卵にも育雛にもかかわらない。

### 2. 生息状況

【分布】 環境省鳥類標識調査の結果から、北海道・青森で繁殖したものは関東、東海、紀伊、四国の太平洋沿岸の温暖な地域で越冬するものが多く、九州のものは主として朝鮮半島から冬鳥として渡来しているが四国、山陽、東海方面にも移動することが知られている。

【習性】 繁殖期は北海道や東北では平地の草原、本州中部では高原で繁殖する。その他の時期は低地から山地の草原や農耕地にすむ。草むらの地上を歩きながら採食し、地上に落ちている草の種子、小果実、動きの少ない昆虫やクモ類を食べる。

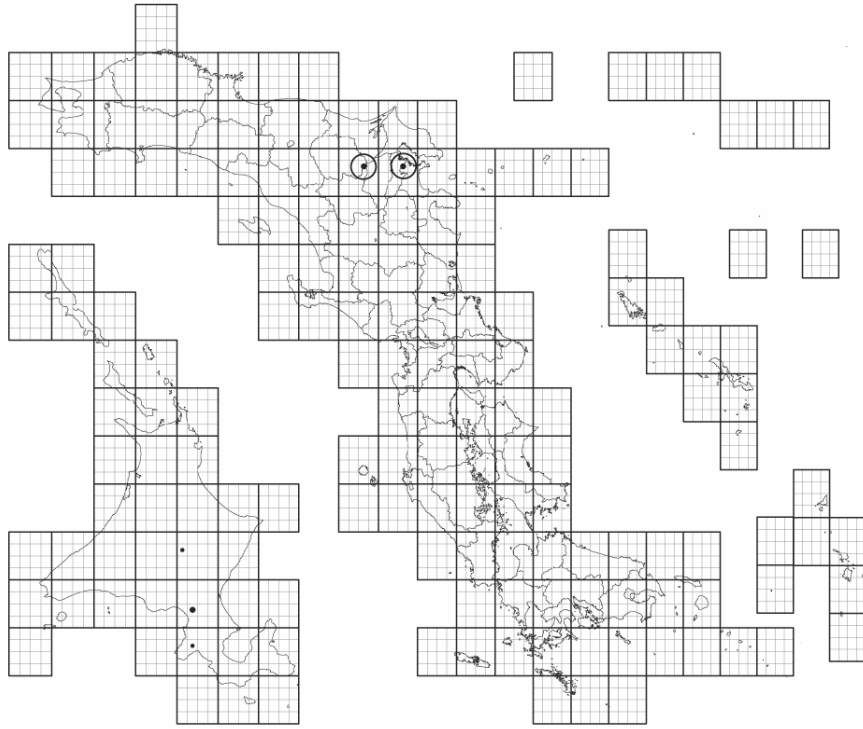
### 自然環境保全基礎調査（鳥類繁殖分布調査）の結果

第2回調査（1974年-1978年）と第6回調査（1997年-2002年）を比較すると、約25年前に比べて、総メッシュ数（繁殖ランクA～Cの合計数）が46メッシュから5メッシュとなり、11%に減少している。全国的に分布は縮小している状況である。

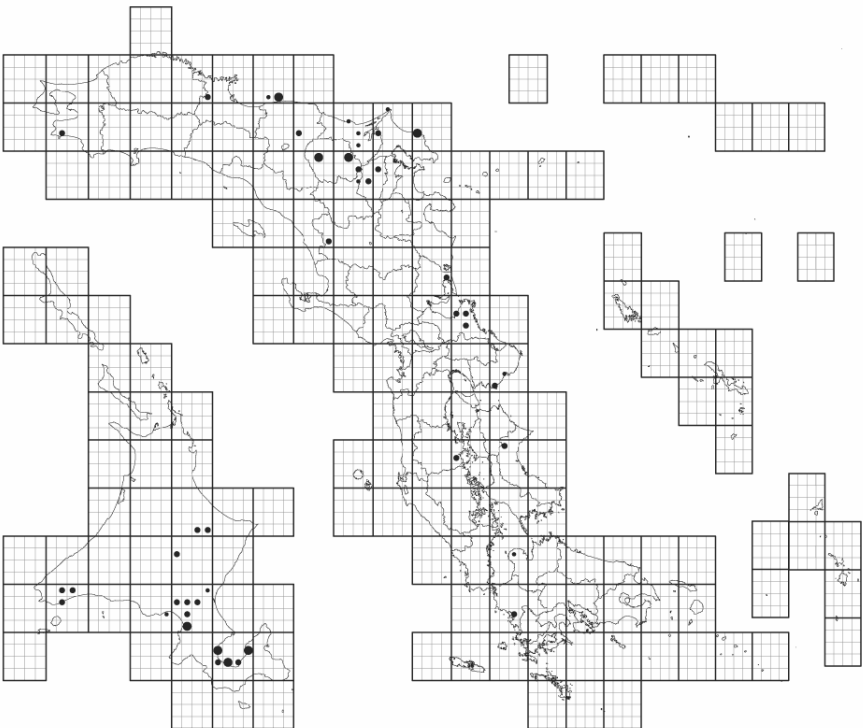
#### 自然環境保全基礎調査（鳥類繁殖分布調査）における繁殖ランクの定義

- ・A 繁殖確認
- ・B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- ・C 生息を確認したが、繁殖については、何ともいえない

1997年—2002年      メッシュ数    A=0    B=3    C=2



1974年—1978年      メッシュ数    A=8    B=28    C=10



### 3. 捕獲動向

ウズラの捕獲数は、1980年度頃までは4万羽を超える捕獲数だったが、その後の約10年間に約1万羽程度まで急激に減少している。それ以降も減少傾向は続き2004年度の捕獲数は約700羽となっている。

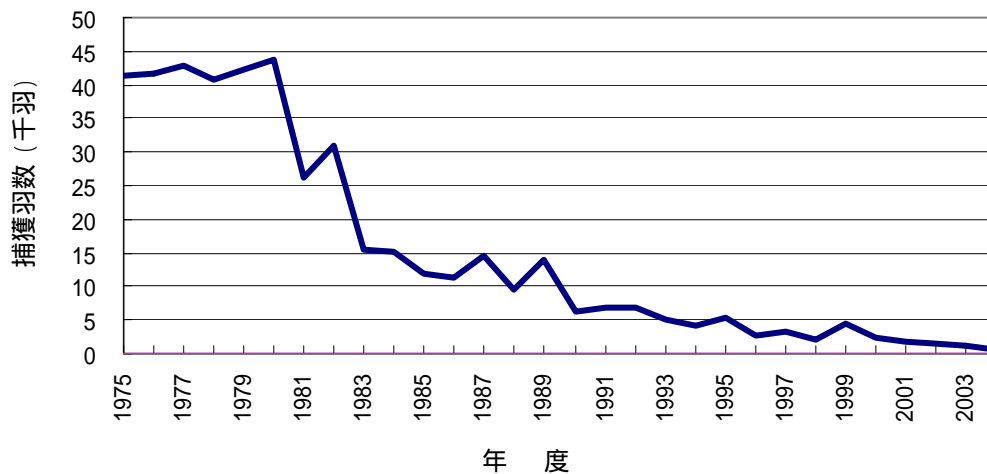


図 狩猟による捕獲数の推移（鳥獣関係統計より）

（参考）

ウズラの生息地となる草原環境の推移を林業センサスデータで見ると、1980年までは減少していたが、1990年以降はほぼ横ばいであった。

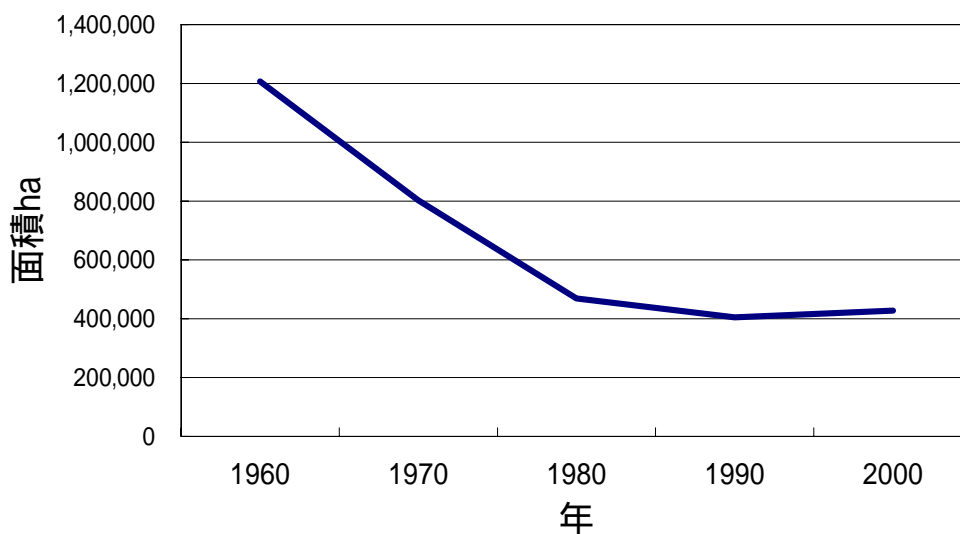


図 林業センサスデータによる、草地面積の推移